

◆◆◆◆ F F 世界選手権速報！！！！

●2005年記録会は6月19日(日) 瀬谷広場(9:00~12:00)(フルサイズ)

●2005年記録会は7月17日(日) グリーンパーク(9:00~12:00)です!(300円HLG)

今年も、はや公園巡りの季節になってしまいました。残念な事に日本には夏期に大型が飛ばせる様な広い公園がありません。結局は草深い所に密かに入り込んで飛ばすか、狭い公園用の小型機で我慢するかを選択を迫られます。

昨年から通っている幕張海浜公園で紙のランチャーに会い、少しですが紙飛行機作りに目覚めました。そこでインターネットで「紙飛行機」を検索したところ、「プロフィールスケール紙飛行機」の情報が多し事が解りました。しかし、紙飛行機は飛ばすのが難しく、やってもやってもバルサ程飛ばず、スイスイ降りてくるので狭い場所用に最適です。ランチャーズも最近では紙飛行機に攻められているので、みんさんも、この機会に挑戦して見ては如何ですか。

紙飛行機以外に、もう少し飛ばす入門用のバルサHLGを何種類か作って公園で待ち受けて、網にかかる人が来るのを楽しみに過ごしたいと思います。しかし、余り教え魔にならない様に、且つ、自分も楽しんで過ごす工夫をと、考えています。

記録会報告	①2005年4月記録会/HLG	②2005年4月記録会/PLG、
	③2005年5月記録会/HLG	④2005年5月記録会/PLG
	⑤板倉大会報告	⑥05年FF世界大会速報
	⑦室内HLG新記録達成・石井満	⑧平城京大会速報・高田富造
お知らせ	⑨ランチャーズ合宿案内	⑩航空シンポジウム案内
FFサロン	⑪ゴム5グラム級ライトプレーン・《講座》石井英夫	
雑談天国	⑫世界選こぼれ話2	

◆2005年4記録会の結果(HLG/CLG)

4月HLG記録会報告

平尾・・・①

今年は4月16日から大宮田んぼに水が入るといいう緊急情報によって、急遽開催場所を水元公園に変更した。変更連絡の時間が余り無く、メンバーに周知徹底出来なかった事は申し訳なく思う。とは言うものの、当日はパチンコは少なかったが、HLGは結構な盛会でほっとした。と言うのも紙飛行機競技会に相乗りしたお陰ではあるが・・・。

この日の300円HLGの競技は、やや準備不足ではあったが、そこはランチャーズ。急遽機体を作ってきた人もいて、無事開催。かななかなかの盛会で参加者16名が肩を競った。しかし、この場所は気流が悪いので、170秒の記録が精一杯。それでも前半は合計7MAXが出たが、後半は3MAXのみと、さすがにきびしかった。又、前半MAXを出した選手は、馬鹿サーマルのお陰で機体の回収が出来ず、後半になるとサーマルに乗ってもはたかれる事が多く、運(すぐれた人柄?)が勝敗を分けた。結局は怖い物知らずの初参加・木口選手が優勝、2位に大人しめの寺田選手が付けて、3位に吉田選手と肩の良い人が当然上位に来た。4位には肩の良い井村、大八木両選手が同タイム、6位に子連れの石井満選手、7位に精進している野中選手、8位は紙から脱皮中の平林(弟)選手と続いて、ここまでが149秒。中間に135秒の熱心党の三田選手。これ以下はガクッと落ちて120秒以下になってしまう。この場所では紙の方が相性がよい様だ。

UHLGの雄・春山選手は、翼端投げ300円HLGを作ってきたものの、さすがにスパン30cmそこそこでは有利さが出ず(年かなー)、しかし次回までに何か考えてくるのでは・・・。

さすがに、小型になると滞空性能がガクッと落ちて20秒飛ばすのが大変。悪気流対策として、翼面荷重がちびた号で6g台しかないのでは、これをうんと増やして高速滑空にして安定性の向上につとめる手があるが、どう出るか。次回は新天地・都立大島小松川公園(自由の広場)で開催予定、ここの気流はどうなのか。

4月HLG記録・4月17日水元公園・晴、気温15~21度・南東1~4m/S、40秒MAX、7/10合計

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	F3	総計
1	木口	34	40	26	24	25	36	15	11	11	34	170				170
2	寺田	40	16	18	40	08	36	17	23	27	17	166				166
3	吉田	19	22	02	21	22	40	38	29	22	34	163				163
4	井村	30	40	19	40	17	23	25	14	21	04	158				158
4	大八木	15	21	24	23	40	22	13	26	40	17	158				158
6	石井満	04	26	08	25	19	35	07	31	17	40	157				157
7	野中	19	15	20	27	34	34	15	35	23	03	153				153
8	平林弟	04	22	40	12	13	31	19	37	10	15	149				149
9	三田	14	40	04	16	24	30	11	25	15	14	135				135
10	平林兄	14	17	18	35	16	12	22	26	27	17	129				129
10	春山	27	19	16	15	19	18	13	30	24	17	119				119
12	三俣	15	07	31	25	18	11	03	23	21	12	118				118
13	菅野	19	07	40	08	13	19	20	16	06	12	114				114
14	平尾	14	09	16	19	10	04	10	16	10	18	83				83
15	斉藤パ	11	08	15	18	15	06	14	10	08	-	73				73
16	戸谷	10	11	13	07	05	03	09	05			50				50

U

4月PLG記録会報告

佐藤・・・②

1年半振りの水元公園の記録会となりましたが、大宮田んぼから急遽場所が変更になった関係で参加者も4名でした。快晴で気持ちの良い日でしたが気流の状態が悪かったためか、十分な高度があったのに(出口機)MAXはなかなか出ませんでした。優勝は比較的コンスタントに飛ばした戸谷さん(194秒)でした。2位は久しぶりに参加した出口さん(163秒)。3位は無尾翼機の佐藤、4位は無理矢理参加してもらった斉藤さんでした。追記:4~8月までのCLG記録会は、ゴム1g、スティック(棒)40cm以下で行います。(次年次も同様)

ここは気流が悪いので、特に小型機は苦戦します。今回は草が短かったので回収は楽でしたが、馬鹿サーマルか、ストーンと落ちる気流のどちらかで、競技には成りにくい環境でした。しかし、来たら飛ばすのが模型屋のさが。鳥になりたや鶏に、鶏はいやだね、せめて雀にして・・・。

4月PLG記録・4月17日水元公園・晴、気温15~21度・南東の風1~4m/S、45秒MAX、5/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	F3	総計
1	戸谷	45	24	43	45	29	19	28	16	20	32	194				194
2	出口	35	24	33	23	27	21	41	45	27	32	163				163
3	佐藤	7	14	28	13	31	19	12	45	38	17	161				161
5	斉藤	14	20	18	15	18	16	24	36	17	20	118				118

◆2005年5月記録会の結果(HLG/CLG)

5月HLG記録会報告

平尾・・・③

初めての小松川の東大島公園での記録会です。場所は江戸川区と江東区の2つの区にまたがり4ヶ所ある公園の一つで、その内の北東に位置する広場「都立大島小松川公園(自由の広場)」で開催しました。地下鉄の東大島駅から徒歩3分なので何かと便利です。駐車場は100台以上あり、1時間200円です。今年6月からは道路交通法が変わって、駐車違反は白墨書きは無くなり、即違反の張り紙になります。その場合は最低で15,000円取られますので駐車場代金1,000円程度は安い、やすい。ですから、車は駐車場に入れましょう。

公園は少し高台(+10mか)になっていて、全域は350m平方ほどあります。飛行場として使える広さは250mの円形で、グリーンパークより広い。

さて、競技の参加者は何時もより少なく、少数精鋭(精鋭ではない)でした。気流は水元公園よりは良く、本気でやればオールマックスは可能です。この日は南東の風がやや強く、行方不明機が出ました。周りには一本立ちの木があるが、林がないので回収はやり易い方です。しかし、公園の周囲の地面が下がっているので高低差の有る分だけ遠くに飛ぶのか、以外と探すのは難しい。

優勝は初めての、平林久乃助選手、ご兄弟で名前も「平林久」までが同じなのでややこしい。ナカナカ見事な高度で2MAXと立派でした。2位はバイアグラの相沢会長が久しぶりの入賞です。

位は早撃ちの吉田選手、4位は翼端投げ一辺倒の石井満選手、5位にこの日も真剣に飛ばしていた三田選手、6位は久しぶりに参加の増田選手、7位は肩が壊れっぱなしの池田選手と平尾。9位はオーディオと二股掛けている三俣選手、10位はこの日の場所を確保してくれた平林のお兄さん、何か元気が無かった……。シッポは斉藤勝選手、なぜか早々にリタイヤしていました。風があった割りには、成績はまずまずで、この場所は使えます。

5月HLG記録 5月22日東大島公園 曇り 20度 南東の風1~3m/s 45秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	総計
1	平林久之助	22	23	3	22	45	16	45	13	4	26	161	161
2	相澤泰男	5	4	26	29	9	24	32	23	17	45	156	156
3	吉田利徳	30	33	14	14	23	17	6	24	22	40	150	150
4	石井 満	19	29	30	26	19	28	4	11	22	26	139	139
5	三田裕一	25	3	22	24	34	12	30	7	12	14	135	135
6	増田仁嗣	22	25	8	38	18	12	17	16	13	19	122	122
7	池田 昇	19	14	13	9	18	14	15	20	20	41	118	118
7	平尾寿康	9	36	4	4	4	5	20	17	24	21	118	118
9	三俣 豊	11	21	19	26	24	16	6	9	7	3	106	106
10	平林久幸	14	18	24	12	17	9	25	15	17	13	101	101
11	斉藤勝男	6	2									8	8

5月PLG記録会報告・東大島記録会

相沢、平尾……④

今回開催の東京都大島・小松川公園は周囲に高層、中層マンションのある公園です。200~250m四方の短い草・クローバの自由の広場公園で、周囲に駐車場や緩衝スペースがあるので広く素敵な場所です。今回の記録会は公園事務所に届けを出して開催しました。届出は地元のクラブに所属している平林(久幸)さんにお骨折りいただきました。ありがとうございます。これだけの、何も無い広場は貴重です。地元マンションの紙飛行会が隣りで行われていました。地元の飛行機クラブの方々はそのちらの応援で忙しく、残念ながら交流できませんでした。地元の小松さん、ありがとうございます。次回(来年?)また、お世話になります。どうぞ、よろしく願いいたします。

今回は高い側が風上で気流が乱れるのか、サーマルになかなか乗らない日でした。そんな中、HLGは2MAX161秒で平林(久之助)さんが優勝しました。PLGは1MAX, 2MAXの選手を抑えてノーMAXの山田さんがコンスタントに稼ぎ194秒で優勝しました。PLGは大島・小松川公園と武蔵野に分かれての開催でしたが表彰は大島・小松川公園側のみで行いました。あしからず(相沢)

この日は、西東京組が別場所で記録を取る事になり参加者が減りましたが、松戸からの遠征組が欠席者分を埋めてくれました。皆さん、ホームページを見ての参加で、有り難い事です。8名(記録上7名?)と結構賑やかでした。くもり空でしたが、風読みが難しくそこそこの記録会となりました。この場所の気流条件は水元公園より良く、狭い場所としては飛ばしやすい。フライオフは無く初参加の山田さんが優秀な成績で優勝、2位は凄い高度を取る松戸の林さんが入りました。3位も松戸の杉本さんでした。出口さんは練習の様にはいかず4位。しかし、なかなか難しい条件の中180秒超は立派です。競技では普段飛ばしている時よりも、力が入ってゴムを引くので、機体の狂いが出たり返りがくるったりど「緊張」して身体に良いはずです。ランチャーズの古参が全滅でいささか寂しい気はしましたが……。

5月記録PLG 5月22日東大島公園、曇り 20度、南東の風1~3m/S 45秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	総計
1	山田新作	8	43	37	32	11	23	33	39	25	42	194	194
2	林 善明	45	17	33	25	45	34	34	11	29	30	191	191
3	杉本春吉	34	45	32	45	23	29	20	23	10	31	187	187
4	出口東生	42	38	16	18	22	28	35	21	41	30	186	186
5	工藤陽久	3	25	29	15	6	16	31	45	16	11	146	146
6	秋元英男	23	22	7	16	4	32	17	13	22	23	122	122
7	大城戸錠	35	22	22	15	19	15	10				113	113

5月PLG記録会報告・グリーンパーク記録会

河田、平尾・・・④

くもり空で風もほとんどなく参加者13名中7人が190秒を超えました。5MAXが4人となり河田が30+39秒でグリーンパーク1位、2秒落ちで倉田さんが2位、倉田号の柏谷さんが3位、三辺さんはF/Oをリタイヤ。あの小堀さんが無尾翼機で参加しました。(河田)

今回は2会場で開催という変則的な記録会方式(以前から要望あり)になりました。考えてみるとランチャーズも凄い事になったものです。5月記録会の参加者は、2会場合わせるとパチンコだけで21名にもなります。今後とも要望があれば、この形式をランチャーズの発展形式と考えて継続する意向です。但し、他クラブの記録会まで侵略するつもりは全くありませんので、不悪。

相沢会長と相談の結果、それぞれの会場での優勝者に「ランチャーズ・カップ」授与としました。特に、パチンコの場合は機体が小さいだけに、気流の善し悪しに敏感です。ましてや、会場の条件、特に気象条件が全く違うので同一の記録とするには、無理があると判断しました。

5月記録PLG 5月22日グリーンパーク、曇り、気温20度、微風0~1m/S 40秒MAX

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計	F1	F2	合計
1	河田	40	40	40	40	40						200	39		239
2	倉田	10	40	40	15	40	34	40	25	36	40	200	37		237
3	柏谷	40	39	40	40	40	40					200	23		223
4	三辺	15	40	40	25	39	40	40	40			200			200
5	佐藤	28	16	32	40	40	40	40	36	22	25	196			196
5	乙川	40	35	40	22	25	28	36	40	40	20	196			196
7	石引	40	40	23	28	33	25	40	37	35	18	190			190
8	内山	40	31	23	40	40	34	24	26	30	33	187			187
9	小嶋	29	32	38	40	36	40	26	21	06	06	186			186
10	吉田	34	31	25	29	21	31	31	18	12	29	154			154
11	斉藤	22	30	40	22	21	25	17	22	28	26	149			149
12	小堀	15	24	23	23	27	32	18	30	18		136			136
13	広田	12											12		12

◆2005年・板倉大会報告

平尾・・・⑤

今年の板倉大会は、数年ぶりの好天気で参加者それぞれ楽しめたと思います。しかしながら、地元との関係が必ずしも良好とは言えず、我々の意識改革が必要に感じました。今後は田んぼになるべく入らないで、発航陣地を作る等工夫が必要です。今回も、F1B以外は「遠めがね」観察による報告です。

F1A・グライダー 板倉大会レポート(我板倉をかく戦かえり)

大八木重伸

今日は、ランチャーズの大八木です、2005年板倉大会の感想とレポートを報告します。

今年の板倉は例年に無く晴天に恵まれ、風も弱くなかなか良い条件でした。1R目はバルーンの通過で30分遅れでスタート、北関東の朝はやはり寒く、サーマルが出ているのか判らず、皆様、慎重にサークリングおこない、何人かは落としたもののその他はMAX(もちろん自分もスーパーMAXクリアー)。2R、3R目とも風が弱まったり、クルクル回ったりグライダー屋には大迷惑な気流です。上空の風と地上での風がまるっきり違い、皆とまどっていましたが、やはり、世界戦に出ている3人は別格でした、的確にサーマルを捉えてMAX、さすがですなあ～(私もこの時点でオールMAX)。

この間には色々トラブルが有り緊張の連続でした。3Rにデサマのラインが切れたり、ラインにフラッグが絡まったりしました。4R目で自分がオールMAXを出していることが判り、ますます緊張。廻りの選手の口撃にあい、気の弱い私は自分を見失い、ただ子羊の様に震えるばかりでした。5Rと6RなんとかMAXを取り、最終の7Rへ。

7R目、これがまた自分なりに劇的な出来事が、なんと、緊張のあまりラインが手から離れ・・・アテンプト。再スタート、これが良くなかった。一息つけば良かったのに、もう頭の中は真っ白、自分が何をやっているのか？わからずオタオタしているうちに発航してしまいました。その結果は・・・。まあ、自分にとっては上出来の大会でした。

最後に、私のホルダーになって下さった山本さん、色々アドバイスを(プレッシャー)してくれた白井君、その他声援を送って下さった皆様、大変ありがとうございました。これからも皆様一緒に遊んでください。田岡さん、大矢さんおめでとう。大八木でした、クヤシィ～ィ。(大八木記)

今年の参加者は、例年とメンバーが多少入れ替わったものの11名と競技としては適当な数。今回初めてお披露目の新品の選手がいて、これがベテランにとっては何をやるのか予測出来なかった様で大混戦。この中で焦ったのは和田、白井の世界選組でしょう。ど素人にやられそうになって、必死で巻き返して辛うじて上位に残った印象でした。それ程、この日の気象条件はハチャメチャで誰でもがMAXをねらえる、又、あつという間に接地するコンディションだった訳です。全体を見ると自作機組は成績が悪かった様です。

世界選組の和田選手は途中落としたものの、いけると解ると必死で頑張って優勝したのはさすがでした。2、3位は山本、田岡の両選手に持って行かれたのですらライダーなんて、さほど難しくないのでは……。惜しかったのは大八木選手、最終ラウンドを大きく落とさなければ優勝カップだったのに。又、大矢、田岡の両選手はF1Aを本気で始めてせいぜい半年、これで上位ですから、良い機体を手に入れたら、ゴムなど止めて皆んなでライダーに行こう！！！！

F1B・ゴム動力機

これまでの、この大会は例年強そうな人が勝っているのですが、今年は6ラウンドで「どんでん返し」がありグチャグチャの混戦となり、優勝者、2、3位の選手には失礼ながら予想外の結果でした。今年は全員がオールマックスを逃がしたので、結果として全て3分競技となり、5分飛ぶ機体と5分は飛ばない機体があいこになっての結果です。

5ラウンドまではいつもの様に伊藤、岩田の両選手がパーフェクトで残り、2人の優勝争いかと思っていると、2人ともアリヤリヤの大失速。この時点でスーパーマックス分が全て消え去って、3分MAXの合計点の勝負となり、上位がガラガラに入れ替わったからです。それにしても、飛ぶ飛行機をフルに使って必死で戦った選手も、いい加減に戦った人も、今回は成績には反映されない。この様な戦いは不公平だと思うほど airflow がひどかった。

別な意味では、どんなに落としても決して諦めない、勝山選手の様な人が勝つ事が出来る好例である。やはり、勝山選手の3位入賞は立派で、複雑な装置無しの方角翼、自作可変ピッチモントリオール機で十二分に戦える事を証明している。airflow を読んでもよんでも当たらないのだから、今年のF1B競技は難しかった。

F1C・エンジン機

このクラスは、皆目わからず。但し、何機か墜落した様です。その中でも世界選組の金川選手が落とした様で、気の毒でした。又、同じく関沢選手も危なくなつて、機体温存に割り切ったようです。練習しすぎると、機体と人間が疲労して墜落するのはよくある事です。地元・小林選手の優勝は初めてでは……。それにしても、この好条件でオールマックスが出ないのは不思議発見！！！！

F1A

順位	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計	Sm1	Fo1	Fo2	合計
1	和田 光信	180	180	180	180	175	180	180	1255				
2	山本 修	180	180	162	180	180	180	172	1234				
3	田岡 眞	180	180	180	75	180	180	180	1155				
4	大矢 高士	180	180	180	127	180	117	180	1144				
5	白井 庄二	180	180	180	180	143	94	180	1137				
6	大八木重伸	180	180	180	180	180	180	56	1136				
7	熊井 恒雄	180	180	82	73	180	180	180	1055				
8	櫛引 敬司	36	171	180	171	180	134	92	964				
9	土肥 英幸	180	95	180	79	58	180	180	952				
10	宮辺 康治	180	36	74	46	180	88	180	784				
11	三留益良男	180	180	38	47	148	180	0	773				

F1B

順位	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計	Sm1	Fo1	Fo2	合計
1	新谷 誠悟	180	163	180	180	180	180	180	1243				
2	白井 正巳	180	180	180	143	180	180	170	1213				
3	勝山 彊	180	137	180	180	172	180	180	1209				
4	津田 晃英	180	180	180	124	180	180	180	1204				
5	菅原 隆郎	180	153	180	180	143	180	180	1196				
6	中田 光恭	180	180	180	180	180	115	180	1195				
7	吉田 潤	180	180	180	180	180	93	180	1173				
8	岩田 光夫	180	180	180	180	180	84	180	1164				
9	伊藤 勝	180	180	180	180	180	84	180	1164				
10	浅沼 資司	142	180	118	180	180	180	180	1160				
11	坂巻 敏雄	180	135	180	122	180	180	180	1157				
12	前田 喬	180	161	144	145	167	180	180	1157				
13	宇津 秀夫	180	180	153	180	180	91	180	1144				
14	織間 政美	180	123	180	180	180	180	0	1023				
15	西澤 実	180	180	119	180	0	136	180	975				
16	井澤 正男	180	180	180	76	76	103	162	957				
17	大塚 恵司	71	69	180	180	0	180	7	687				
18	平尾 寿康	146	131	180	118	0	0	0	575				

F1C

順位	氏名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計	Sm1	Fo1	Fo2	合計
1	小林 正樹	180	180	180	138	180	152	180	1190				
2	金川 茂	180	180	180	92	180	164	180	1156				
3	江連 明夫	180	180	180	141	133	180	115	1109				
4	関沢 一雅	180	180	0	0	0	0	0	360				
5	吉川 強	0	0	0	180	0	180	0	360				
6	伊藤 俊介	46	77	48	0	0	0	0	171				
7	谷塚 正実	0	0	0	0	0	0	0	0				
8	田久保潤一	0	0	0	0	0	0	0	0				

◆2005年・FF世界選手権速報

⑥

これは選手団から・ランチャーズホームページ・に送られてきた速報をまとめたものです。明確な誤字以外はオリジナルのママ。生情報なので多少前後したりとんだりしますが、そこがイイところ。

1. 先発隊いよいよ出発????

金川

17日に先発隊として津田、宮本さんがアルゼンチンに向けて出発します。時間的な余裕を持って出発する二人ですが、津田さんは世界選手権前に行われるワールドカップで腕試し。現地の気象条件を観察して本番に臨みます。

宮本さんは競技には参加せず、じっくりと気流読みの練習といったところ。先発隊としての現地での事前の調査などもしてくれる予定です。

遅れること3日間の20日には残りの7名が出発します。仕事で忙しく休みが取れない方々ばかりで、ニューヨークでの乗り継ぎに失敗すると最初のF1A競技に間に合わないという、運を天に任せるしかない綱渡り的な強行日程。和田さんが最近足を傷めたことはこの掲示板でも紹介されていますが、出発直前でも最終的な参加・不参加の決断ができないという非常に厳しい状況。今回ほど「神様」とか「試練」いう言葉がたくさん使われる、事前のアクシデントが多い世界選手権は今までありませんでした。本番で起こらないように、全て悪いところを吐き出させてくれたことに感謝して、まずは先発隊の出発に「プレー、プレー」の応援をお願いします。

2. 和田選手は参加できそうです????

金川

心配していました和田さんの足の状態も徐々に回復傾向にあり、本日の時点で参加することに決めた

そうです。そうは言っても、直前でのキャンセルは可能性としてはゼロではありませんが、今までもやもやとしていた霧が一気に晴れたような気がします。団長として、和田さんの選手としての活躍はもちろんのこと、現地レポートを一手に引き受けてくれる貴重な存在がダメとなると、現地レポートはダメなのかとあきらめていましたが、これでなんとかなりそうと一安心です。最悪の場合、先発の宮本さんに画像の送信は無理としても、メッセージだけの送信でも何とかならないかとお願いし、彼も急に依頼されたにもかかわらず、パソコンを急遽準備して持って行ってくれました。バックアップ体制もどうにか確保し、団長としても一安心です。

次は20日の後発隊の出発です。天候が下り坂で、出発の頃に成田の天気が悪化し、それが原因でノースウエスト便が出発遅延で、結果としてニューヨークの到着が遅れ、乗り継ぎに失敗したらどうしよう？と、いろいろ心配事を抱えて大変な団長です。なるようにしかならないのですが、団長の心配は尽きることがありません。

3. 後発組みは本日出発

金川

先発組みから第一報が入りホッとしました。予定通り到着で、現地レポートもできるということで一安心です。でもフィールドの状態が最悪との事。チェコ大会の時も麦を刈り取った後で条件は良くなかったですが、それ以上に悪いのかもしれない。機体のダメージ多発で消耗戦になるかもしれません。レンタカーが意外に小さいとの事で荷物が積み込まれるか心配になってきました。でも宿舎のバックの青い空。なんとなくいいですね。後発組は本日出発します。一番遠い国での世界選手権。応援をお願いします。

4. 選手団到着

和田

本日21日アルゼンチンはコルドバの宿舎に日本選手団は全員無事集合しました。いろいろあった道程は後ほどの笑いにするとして、まずは一番ほっとしたのは金川団長でしょう。本当ににご苦労様でした。これから各自の力を出し切ってがんばれるかどうか、・・・皆様ぜひ応援をお願いします。一番張り切っているのはいろんな意味で白井選手かな???

業務連絡「きよみちゃん、ひろえちゃん、としこちゃん、宮川さん！がんばって明日から本気？出します？今夜はゆるしてね！やっぱり世界選手権サイコーです」白井

本日練習日も充実したりポートを送る材料はたくさんあるのですがPCソフトの不調で間に合いませんでした。みんな元気で練習終了。明日の初日のF1Aは全員飛行機にトラブルはなし、競技に向けて機材は好調です。後は選手の振る舞い方にかかっています。では時間もないのでこれでおやすみなさい。写真は全員を代表して金川隊長の練習風景をご覧ください。私には絶好調に見えました。

5. 世界選手権速報 0522 2日目 現地からの報告？

? 2005/05/22 和田

日の出前に朝食を終え、いざフィールドへ！！

到着と同時に太陽が地平線から昇ってきた。気温はマイナス4℃、指先の感覚がなくなるほど冷え込んでいた。今日は開会式があり、約1時間程度しかフィールドに居ることが出来ないため、限られた時間での調整1日目が始まった。

まずはF1A 和田・宮本・白井の3選手は早速サークリングを開始、調整というよりアルゼンチンの空気を確認しているようだ！フィールドの状態は前回の報告でご存知のとおりデコボコトウモロコシの切り株、そのため和田選手は足の状態(走れない?)を考え、無理せず予定終了。宮本選手は普段通りのペースで気流を確認しているようだ。300mほど風下では、マカロフを中心としたロシアチームが練習していた。

F1B 津田・西沢・坂巻の3選手も気合十分！津田選手は足のことを考え、本日はサポーターに徹するつもりだ！西沢選手はゴム巻きを終えたが、トラブル発生！あとで西沢選手に聞いたところ「今日で良かった！一つ勉強になりました。明日そのことを確認するだけ・・・」、初出場の坂巻選手がフライト！あの笑顔の中に何か感じたようでした。

F1C 金川・関沢の両選手はエンジンランのみの調整。アルゼンチンの空気を十分に吸い込み燃焼しているようなカン高いサウンドを響かせていた。今回のメインスポンサーであるHONDAのレーシングエンジンに優るとも劣らないものであることは言うまでもないことだ！電子タイマーに異変？あまりの低温(許容温度範囲外)のため、動きがおかしい。フィールドではトラブルシューティン

グ出来ず残念。明日の練習日ではホッカイロをタイマーに巻いて解決できるか？こんな低温ではF1Cを飛ばしたことがない。あらゆることを想定して行うことの大切さを実感。練習を早々に切り上げ、開会式が行われるエンバルスポートドームに向った。チームユニフォームに手を通した瞬間、心地よい風が流れたように感じた。各国入場行進のあとRC飛行機とヘリのアクロバット飛行などプログラムが進んで行く。一番盛り上がったのは、やはりアルゼンチンタンゴ！カメラを持った各国の選手が一斉にステージの際まで駆け寄って行った。その少し後方でロシアチームのマカロフとコチャカレフがひそひそ話をしていた。多分・・・「M: コーチャン、久しぶりに踊らないか？K: えっ、あんなに情熱的には踊れないわ？M: 大丈夫だよ！今夜は僕がリードするから！・・・」と言ったかは定かではないが・・・？開会式も終わりオープニングバンケット、美味しい料理を食べながら金川団長を中心に盛り上がりました。本当に美味しい料理ばかりで夕食が入らないほど食べてしまいました。夕方には機体検査を全員が問題無く終え、夕食までの時間は各自が思いのまま時間を過ごすことにした。金川団長と津田副団長はマネージャーミーティングに出席されました。ご苦労様でした！。

最後にF1Aの白井選手は、午前中のラウンドも午後のラウンドも予定どおり？にこなしていました。彼曰く：「僕は英語が全然駄目なんです！・・・」と言いながら名前に年齢職業など情報を収集していたとか？今日はこれでお終い！それでは昨日のF1Aの白井レポート（これも気合が入ってます）をどうぞ。

6. 世界選手権 競技 1日目？F1A

日本の皆さん、こんばんは！一日遅れの報告です！すでに写真と世界選手権HPで成績はご存知だと思います。少し明るくなり始めた頃、フィールドへ移動が始まった。今回使用されるフィールドは、やや傾斜があり、湖に緩やかに下るような感じだ。夜明けから競技開始まで僅か45分程度しかなく、慌ただしい始まりとなった。まず一番始めに機体を上げたのが和田・白井選手、セッティングとラインから伝わる感覚を確かめて離脱！いい感じ！宮本選手は各国の選手をチェック？しているようだ。あと5分でいよいよ始まる！

第1ラウンドはスーパーマックスで4分である。まずは白井選手がスタートした。機体は湖の方向へ流れるようだ。風速は1m程度、3、4回機体を回し離脱、機体はゆっくりとグライドしている。落ちてくる気配すらない。見事MAX！幸先のいいスタートだ！

次に宮本選手、慎重に気流を選んでいようだ！坂の下から上に向かって走るので、少しスピードは落ちるもののさすがのMAX！和田選手は足の状態を考えて押さえ気味に離脱！途中気流の影響で機体がぐらついたがこれもまた見事MAX！

第2ラウンドから少し風が出始めた。ここでアクシデント！白井選手が手応えを感じて離脱に入ったが、数秒後には機体は地面とKISSしてしまいアテンプト！とりあえず宮本・和田選手に先に行ってもらい二人ともMAX！再スタートの白井選手は1番機を取出したが13秒足らずの167秒。

第3ラウンドからは強風となった。風速8～9mはある。またまたハンガリーの再現かと嫌な雰囲気になっているのだが、和田選手だけは違った。まずは宮本選手、機体を回しきれずに離脱、和田選手共にサーマルを捉えきれずMAXならず。白井選手は2回程度回した後に離脱、久しぶりのMAX！。

第4ラウンドも風は収まる気配なし。和田・宮本選手はMAXだが、白井選手はサーマルを捉えたかと思っただが、見放されMAXならず、残念！この風の状態でMAXを出せば3Kmは飛んでいるはずだ。ここでスタートラインが後方になり民族の大移動が始まった。少し時間余裕があり、各自ラウンド開始までくつろいでいようだ。その中でも白井選手はうつ伏せの状態？後で聞いた話だが、「ショックで泣いているかと思ひ声が掛けられなかった！」実はお守りで連れてきた“ピカチュウ”に「助けて！」とお願いをしていたとのこと！第5ラウンドからは和田・白井両選手は機体の調整を兼ねながらのラウンドの消化となったが、宮本選手を含めた3選手ともALL MAXで競技を終えた。

フライオフに残ることが出来なかった悔しさと、世界中から集まってきたスペシャリストの中で競技できることの幸せを感じながら、「NEXT TIME、次こそは・・・」とところに決め帰路についた。

残念ながら、F1Aは3人ともFオフ進出できませんでした。プレスルームの終わり時間が過ぎているので結果だけ報告。宮本28位 和田31位 白井38位 日本チームは団体8位 まあ満足のいく結果ではないですが、楽しく競技できました。応援ありがとうございました。

優勝はアメリカのMマッキーバー 終日強風の難しい大会だったと思います。詳細は後日。写真はMマッキーバースタート風景です。

7. 世界選手権速報 2 日目 F 1 B

白井

早朝から機体と期待を乗せて車はフィールドへGO!

前日と同じくマイナス4℃付近を車の温度計は示していた。津田・西澤・坂巻の3選手はいつもと同じように機体を組上げていく。まずは津田選手が上げた。地表付近の風と上空の風向きは違うようだ。あと30分後にラウンドが始まる。

第1ラウンド開始!坂巻選手が1番、緊張した様子もなくいつもの笑顔だ。世界選手権初ラウンド!アルゼンチンの空へ……見事MAX!世界選手権デビューをMAXで飾った。みんなからの握手責めにあった。次に西澤選手、練習からの好調さを維持している。西澤選手の機体は上空にしか興味のない素振りをしながらグングンと上昇していく。当然MAX!最後に津田選手、足の調子が思わしくない中、TAKE OFF!機体は青い空へ吸い込まれていくように上昇していった。見事にMAX!幸先よいスタートだ!

第2ラウンドが始まった。坂巻選手がスタート!連続MAX!しかしこのころから風が強くなってきた。恐らく5・6mはあるだろう。西澤選手はスタートラインに立ったが、スタート出来ない。風が冷たい、しばらく待った後にスタート、やはりよくなかった。まさかの失速。このあと次第に風が強くなっていくとは……。

津田・西澤・坂巻の3選手は大サーマルへ入れ次々とMAXを量産したが、機体回収に問題が生じ始めた。フィールドは確かに広いが、区画毎に有刺鉄線が四方に張り巡らされており、バイクを使っても隣のフィールドへは簡単にいけないことがわかった。馬さんや牛さんが睨んでいる!機体回収に大活躍の和田選手も必死に草原を走りまわっている。アルゼンチンには「暴走族?」という言葉があるだろうか?坂巻選手が6ラウンドに飛ばした機体が帰ってこない。これがなければ最終ラウンドは……終了3分前に機体は坂巻選手の手元に帰った。ギリギリ間に合ったかと思ったが、ゴム切れ……「ゴムが切れてから終了の合図がフィールドに響き渡るまでの時間が非常に永く感じられた」と金川団長の口から一言。フライオフは翌朝開始となった。

8. 世界選手権速報 0525??

和田

F1Bの競技は昨日に増した平均7m最大12mの強風の中のゲームとなりました。結果は津田17位、西沢24位、坂巻68位となりました。津田選手はスーパーマックスを逃したものの、ラウンド成績はフルマークでがんばりました。詳細は写真とともに後日報告させていただきます。

フライオフは11人の選手で明日8時30分から行われます。アメリカはアンドリコフ以下3人の選手が残る好結果、団体優勝は決定しています。明日はFF競技の華F1Cが行われます。世界レベルの熱い戦いが期待できます。金川、関沢両選手とも気合がのっていますので結果をお楽しみに。

本朝行われたF1Bを制したのはウクライナの、クラコフスキー選手でした。3機の機体を用意してラウンド終了2分前から一番機のゴムまきを開始する試合の運び方は、アンドリコフ選手と並んで次元が違うという強烈な印象を持ちました。写真はその優勝者クラコフスキー選手です。アンちゃんは確か2位いです」明日の金川さんに大いに期待しましょう。高度滑空ともに世界の超一流のレベルでここまでできています。後は気流状態のみ誰が勝ってもおかしくないハイレベルのフライオフになりそうです。

9. 金川選手(団長)翌朝10分F0進出 世界選手権速報3日目????

和田

これはすごい快挙です。11人で戦った7分フライオフ残った選手は5人。世界の有名選手がやはり強い中でやはり日本の有名選手 SHI GERU KANEKAWAはしっかり翌朝10分F0に残っています。では白井リポート 競技3日目をどうぞ。

10

世界選手権競技3日目?F1C

白井

まずは速報!金川選手、フライオフに残りました!明日早朝、10分間で世界一が決まります。残るは5名!ベルベツキー、アーチャーあとは知らん?とにかく7分フライオフでは一番の高度とグライドでした。皆さん、夕闇迫るエンドレスブルーのアルゼンチンの空を想像してください。沈む太陽の上空を金川機がグライドしている絵は感動ものです。明日はさらなる感動と栄光を確信したぐらいのフライオフでした。

競技はF1A・Bとは違う意外と穏やかな一日であった。関沢選手は練習からのトラブルが尾を引いたのか?最後までアルゼンチンの悪魔に翻弄されたようです。しかしさすが関沢選手、「仕方ない

よ・・・」とあっさりしていたが、2年後のこの光景が瞳に映っているように見えた。回収班も前日とは違い余裕があった。これもフィールドを暴走？してくれた和田選手のお陰だ。今夜は永い夜を過ごすことが出来る金川選手が羨ましい限りだ！

業務連絡: 白井選手は風引きでダウン状態！今日は回収のお仕事はしていません。日本チームの皆さん、ごめんなさい！ 白井

1 1. 金川茂選手 F1C世界チャンピオン

フライオフ終了後、ランディ・アーチャーから祝福される金川茂選手。「Good Flight!!!」

快挙、金川さんが10分フライオフを制しました。40分前に行われたF1Cフライオフで金川さんが完璧な飛行で一位になり 現在機体のプロセッシング中です。確定後詳細をお知らせします。

1 2. 今、機体のプロセッシングが終了。

合格して金川茂選手のF1c世界チャンピオンが確定しました。

1 3. 金川茂 新世界チャンピオン コメント？

「とにかくうれしいです。でもあまりにもすべてがうまく行き過ぎてかえって怖い位です。地球の裏側からのご声援ありがとうございました」 金川茂

1 4. これから帰ります。日本チーム？

やはりテーブルにチャンピオンカップのある閉会式は素晴らしいものでした。あらためて金川さんの成し遂げたことのごさを感じた、素晴らしい表彰式、パーティーも無事終了して、日本チームは帰路に着きます。ただいま28日朝8時、10時には宿舎を出発、車でコルドバ、空路でブエノスアイレス、ニューヨーク、成田と32時間の移動になります。

がんばった選手もがんばれなかった選手もみんな元気です。皆様応援ありがとうございました。なお、フライオフから表彰式の様子は帰国後にリポートしたと思います。

1 5. 世界選手権帰国報告

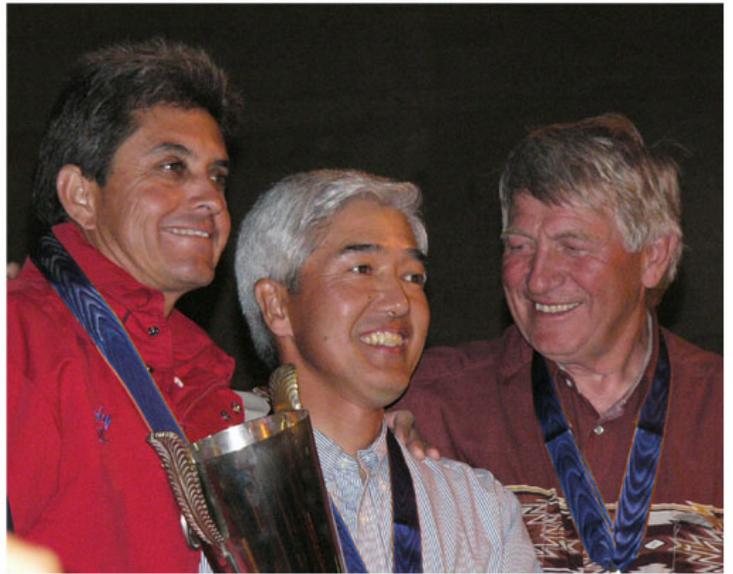
本日30日、ニューヨークで1泊される津田さんを除いて全員無事に帰国しました。ニューヨークからの便に間に合わない恐れが十分ありましたが、これもうまく行って予定通り帰国でき、団長として全ての任務を終えてホッとしています。出発時からいろいろあり、ニューヨークでは和田さんの入国審査関連のトラブルで、一時は和田さんを残してアルゼンチン行かなければならない状態までになりましたが、ぎりぎりでもうにか間に合いました。今回の現地からのレポートは和田さんなくしてありえない状態でした。足の怪我をしながら、選手としても活躍され、回収、広報担当と、超人的な活躍でした。メンバーの皆さんもまとまってうまくやることが出来ました。F1A, F1Bは個人、団体ともあと一歩という成績でしたが、団長である私がF1Cで念願のチャンピオンになり、結果を出すことが出来、本当に嬉しく思っています。

怖いくらいに全てがうまくいったのも、日本でいろいろトラブルに見舞われ、全てを吐き出せたためと思っています。1ラウンドで木に引っかかって回収不能と思われた機体を、和田さんが木から落下して軽い怪我をしながらも回収してくれたことは、幸運以外のなにものでもありません。もし回収が出来なかったら、今回の優勝はなかったと言っても過言ではありません。まだまだいろいろな話がありますが、とりあえずこの場で無事帰国しましたことを報告しておきます。

FF日本選手団・団長 金川 茂

1 6. ご苦労様でした。 やった！やった！

どうですか、私の言ったとおり 「時は春、日はあした、朝は7時、片岡に露みちて、揚げひばり名乗り出で、かたつむり枝にはい、神空に知ろし召す、全て世は事もなし」 だったでしょう。



上段3枚は、ランディー・アーチャーとベルベツキイーを両脇に金川チャンピオン
下段は、金川さんを囲んで日本選手団

◆速報 室内HLG・世界新記録71.4秒・達成！ やまめ工房 石井 満・・・⑦
2005年6月4日(土)群馬県熊谷市くまがやドーム体育館(カテゴリー3)にて達成

おかげさまで無事新記録を出す事ができました。役員さんをはじめ会場でお手伝いいただいた方々やまた色々とアドバイスをいただいた方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。今回はくまがやドームという大型のドーム設備内のバスケ4面の広さで天井がFAI式で25mを少し超える(最高で28mぐらい)恵まれた体育館を使用する事が出来たのが今回の記録が出せた最大の要因だったと思います。飛行機の方は普段大宮田んぼで飛ばしている翼端投げ機を半分ぐらいの重量で仕上げた物で特に目新しいものではありません。広い体育館といえどもさすがにスパン1mのハンドランチでは投げを失敗すればかならず壁に激突することになり機体を消耗するので何機も同じような性能の機体を持ち込んでのトライとなります。結果的には2番機が何回かのトライのあと良い投げが決まって71.4秒を記録する事ができました。

最終的には当日飛ばした4機中3機が壁や天井に接触して壊れました。(笑い)75秒が目標だったのですがあと少し足りず個人的には少々物足りないのですがとりあえず70秒を超えた記録が取れたので満足しています。翼端投げという新しい投法でだれでも大型の機体を使えばこの程度の記録はあたりまえに出せる時代になってきました。

きっと近いうちに80秒を超える記録も生まれることでしょう。インドアHLGも楽しい物です。みなさんも挑戦してみませんか。

◆第6回平城宮ライトプレーン競技大会速報 高田富造・・・⑧

6月5日(日)、奈良市西大寺の平城宮跡において「第6回平城宮ライトプレーン競技大会」をおこないました。前日の低気圧の通過の後を引き、風がいささか強めというなかでしたが晴天に恵まれてまずまずの条件でした。会場周辺は、朝からなにか気合のはいった雰囲気になっていました。みなさんのお出かけが早い、7時には準備万端のかたが大勢おられました。昨年同様に関東からの参加者もつぎつぎにお顔を見せられました。うれしいことです。名古屋勢も、関東勢も新進気鋭の強豪ぞろいで、試合を盛り上げてくれそうな感じ。

8時から受付、8時40分に朝のミーティング。とくに会場内の安全の注意を念入りにしました。広場内の溝やでこぼこに足をとられないように注意すること、ごみの持ち帰り、野鳥の営巣に注意すること、工事現場に入ったときの心得、近鉄電車の線路を渡らないこと、などくどくど言ひましてすみません。われわれだけでないみんなの広場ですから気遣いとマナーは大切です。今回からライトプレーンは、JMA日本模型航空連盟の正式種目となったのでJMAルールでの初の競技会となりました。JMAのルールに本大会独自の特別規定を付加する形をとりました。JMAのルール改正は関心が高くJMAを通じてのご照会も多々ありました。先頭を切るにふさわしい大会になりうれしい限りです。開始から終始北よりの風がやや強くありました。普通なら十分広場に収まるどころでしたが、なにせ強豪ぞろいで気合が入っているのので着地点が伸びはらはらしました。そこで着地点の安全確認のため監視&安全指導のため要員を派遣し、配置しました。風が強めでしたし、サーマルが読みにくい感じでしたが、ときおり強力なサーマルがばあーっと発生し、高高度に模型飛行機を持ち上げていました。

ライトプレーンは、不思議な飛行で結果的に高度をとる加藤さんが初優勝。松本さんも同点で優勝です。HLGは春山さんのmax5回で優勝決定という圧倒的な強さをじかに見せられました。各種目ともに、初めてお目にかかる方も多く、この大会の広がりを感じました。

JMAが青少年育成と航空模型普及のために進める新しい方針がおおいに歓迎されているところでしょう。大会も終わりに近づいてきた頃、風が真南になり遠方に流れる心配が出てきたので、前線の監視・安全指導員とも連絡を取り、大会本部では試合の中断を決めました。一時、選手全員の集合を呼びかけました。そこで、状況を説明し、競技の打ち切りを決定しました。みなさんに快く同意していただきうれしく思います。

今後の開催には十分な態勢で安全管理にあたらねばならないでしょう。選手の皆様にも十分な安全項目の徹底にあたりたいと思いました。大会終了後、管理者である文化庁駐在事務所を役員で訪れ、日ごろのご理解に感謝し、今後の運営のための注意点など話しあいました。今後は事前に開催要項や安全対策を連絡することを申しあげました。また地元の青少年育成のため模型飛行機教室を地元在住の会員を中心に開催することも検討中です。とりあえず速報のみ報告します。(高田)

*奈良 奈良は言ってみれば「へんな町」。古都でもないし、新しいでもないし、都市としての方向性

がゼンゼン見えない。このまま行ったら間違いなく「アカン町」になる。例をあげると、まず、飯屋と宿泊施設がすくない、高い上にロクな店がない。寺院が沢山ある区域にいくと、それなりに風情はあるが、そこまで。寺院の森を眺めながら、雰囲気の良い喫茶店や小綺麗なワインバー、ビールバーなどがあるとイケルと思うが、そんな匂いもなければ影もカタチも無い。また奈良全域、結構起伏があるので、歩いてチョット距離のあるところを自転車で走ると「息切れ坂」で頓挫し、帰ってこれない。貸し電動自転車があると良いのだが。交通機関も循環バス等、何とかせねば。

* 今年の平城京とライトプレーン 今年の平城京は、ほぼ昨年と同じ太ももぐらいまでの草。広さは発掘工事をやっているのだから昨年よりやや狭い。前日も風があったが、この日もやや風があり、うーん残念・・・今年で2回目だが、今回最も驚いたのはライトプレーンの参加者30名！！参加者も後期高齢者からジュニアまでと、このあたり、それぞれ話を聞くだけでも面白そうであるが。この日、日本中のライトプレーン屋が集まったみたい。と言う事はペラも含めてオール手作り組から、市販キット組もいるわけで、性能の差は5倍ぐらいはあるだろう。たまたま、今号(ランチャーズ機関誌05/3/6)から連載がはじまる石井英夫著「ゴム5グラム・ライトプレーン」《講座》にもあるが、この競技会が同じ条件で良いのか・FFとは厳しいものよと言って終わりにして良いものかとの疑問がフツフツ。初心者用アイドルが、いきなり大増年増に変身とでも言うか。まー、1分競技なのでイイカ。昨年より地元も増えてイイコトです。

* HL G地政図 この日関東からは15名が参加、内HL Gには8名が参加した。昨年は怪物・伊藤哲男が優勝し存在感を示したが、今年は「そうはイカン」との意気込みでまずは井村、菅野選手の両選手をそろえた(失礼ながら今一の感があったが・・・)。ところがこれでは危ないと感じたか、当日になって春山名人がしげしげと登場。氏は関東でも本気で戦うと「勝てんナー」の感じの「朝青龍」状態である。この日も青眼に構えて、悠々と5投でオールマックスの優勝。関西はこれでイイとして、今後、関東はランチャーズも含めて「ドウスルネン」 相沢会長の今後の方針を聞きたい。

第6回平城宮ライトプレーン競技大会・成績 2005.6.5 平城宮跡・晴曇り・北の風3～6m ライトプレーンの部

順位	氏名	1 R	2 R	3 R	4 R	5 R	合計	備考
1	加藤 春生	60	60	60	60	60	300	同点優勝
1	松本 允介	60	60	60	60	60	300	同点優勝
3	平井 久俊	60	60	48	60	60	288	
4	竹内 茂基	60	45	58	60	60	283	
5	新留 重道	60	60	60	41	60	281	
6	藤田 清明	47	60	41	60	60	268	
7	岩村 慧一	60	41	46	49	60	256	
8	坪田 勲	60	60	56	14	60	250	
9	妹尾 章仁	60	60	53	30	44	247	
10	三井康太郎	60	60	60	60		240	Jr.
11	宇津 秀夫	37	48	60	60	34	239	
12	平野 清	60	60	55	60		235	
13	小堀 三夫	45	51	42	41	40	219	
13	松下 行治	47	52	60	60		219	
15	松岡 恒夫	60	35	60	60		215	
16	岸田 義和	60	60	60			180	
16	寺川 進	60	60	60			180	
18	荒谷 靖久	57	60	60			177	
19	横山 幸一	24	45	42	7	46	164	
20	小松 照	30	47	53			130	
20	野々村義則	44	52	34			130	
22	高田 富造	38	45	46			129	
23	三井健太郎	60	60				120	Jr.
24	古謝 敏雄	60	46				106	
25	石井 英夫	60					60	
25	毛利 毅	60					60	
25	三井 隼	60					60	

お知らせ

● 2005年 ランチャーズ合宿のご案内・飛行場のお知らせ・急遽変更 ⑨

8月6日(土)合宿の集合場所は、新潟からの情報で急遽変更。今年新潟県阿賀野市の阿賀野テクノタウンにしました。この情報は新潟の細海、笠井ランチャーズ会員の尽力によるもので、地元市も協力を表明しているため、ドウドウと使える場所です。東京からでは関越高速で新潟市を通り越して磐越自動車道に入って2つ目の安田スタターで降りると直近です。温泉もあり、風光明媚な場所のようです。詳細は今回には間に合わなかったため、追ってホームページでお知らせします。

参加希望者には詳細と案内図を送ります。場所は地図上では平地で1,500m×1,000m程あり平坦のようです。写真で見ると、今は短い草がパラパラの土地ですが、合宿頃にはほどよく草が伸びて、飛行機が壊れにくい環境になると思います。

集合場所等は、ひとまず工業団地内の風の丘公園としておきます。決まり次第発表します。全体の見通しは良く、機体の回収は徒歩による直進がベストです。バイクや自転車が使えかどうか今後の情報をお待ちください。近所にホテル、旅館があるようなので、宿舎が決定し次第ご連絡します。電車で行かれる方はあらかじめご連絡下さい。新潟は酒も魚も甘いので、夫人同伴大歓迎です。

今回は、FF世界選の直後なので、凱旋と反省報告も考えています。当日、FF討議をしたいことがあれば企画したいのでご連絡下さい。又、このチャンスに各自自分のノウハウをご開陳ください。お酒は飲めるが体力に自信のない方は、飲みに来るだけでも大歓迎です。

1. 開催日時 2005年8月6日(土)、7日(日) 6日午前7時-7日(日)午後3時まで
2. 開催場所 新潟県阿賀野市阿賀野テクノタウン・(案内図を送ります)
3. 集合場所 同 上 風の丘公園
注:足の無い方は事務局までご連絡下さい。
4. 宿泊場所 新潟県阿賀野市・未定 (案内図別添) Tel.
(室収容人員 名) 駐車場あり。
5. 参加費用 未定・(8,000円/1人程度を考えています)
但し宿泊日の夕食を含む(アルコールと朝食は別途)参加費は当日徴収。
6. その他 競技はありませんので、各自練習調整等思う存分やってください。但し、希望があれば企画します。(夕方6時までOKです)
7. 締切日 予約はインターネットや電話でもけっこうです。7月末までにご連絡下さい。
8. 連絡先 千葉市美浜区真砂3-9-6 平尾 Tel. 043-278-0296 (FAXも同じ)

● 2005年航空シンポジウムの案内 ⑩

1. 開催日時 2005年8月20日(土) 午後1時-4時頃まで
2. 開催場所 新橋航空会館 港区内幸町
3. 発表テーマ 未定

FF文化サロン

■ ゴム5グラム級ライトプレーン 《スペシャル技術講座-1》 ⑪ まちだ-あほうどり 石井英夫

1. いまゴム5グラム級ライトプレーンが面白い

養老猛司教授のいわく、「バカの壁」というのは人間理解力の「カベ」のことだそうです。「バカの壁」でなくても「カベ」なんてものはどこにでもあるようで、模型ヒコーキの世界なら、さしずめ「性能のカベ」やら「技術のカベ」。本講座では近ごろはやりの(一とマクラを振っておくと話が進めやすいので)ゴム5グラム新式ライトプレーンの性能のカベを、A「初級のカベ」、B「中級のカベ」、C「上級のカベ」3ランクに分けて、それぞれのカベ攻略法をテーマとします。もともとはビギナーご愛用で、ゴムは露出型、1本胴に竹ヒゴ片面貼り翼、そしてプロペラは空転式と、古くから変わらないアイドル風ライトプレーンですが、数年前に関西地域に新風がおこり、搭載ゴム量5グラムルールが発案されるに及んで様相が一変しました。先行競技種目なみにピリリと引き締まって、中上級者がマジメに取り組んでも面白い種目になったのです。面白くなければフリーフライトじゃない、というわけで、新風ゴム5グラムライトプレーンのどこが面白いのか？

いつも言っていることですが、出るべき技術はあらかた出尽して、技術的にはすでに飽和状態にあり、競技者変われど競技機自体はどの機も同じ顔付きに見えてしまう一超高性能の完成機だってお金で買

えてしまう一国際級種目などと新式ライトプレーンは違います。こちらは目下発展途上中ゆえ、いわば技術的フロンティアがいっぱい。ライトプレーン技術が国際級ほどにオクが深いなんてバカなことは申しませんが、マジメにやればライトプレーンにだってフリーライトモデルとしてのロマンがある、とまあそういうことです。

技術面をざっと見渡しても、たとえば機体の大きさ、仕上がり重量、デザイン、材料、構造その他、ゴム5グラム新ルールならどうやるのが良いかがまだわかっていない。限定ゴム5グラムをどんなプロペラでやるかも同じ。また性能のことをいえば、ゴム量放任だったライトプレーンがゴム5グラムでどの位飛ぶか？ 上級者が技術を尽くして本気で取り組んだとして、究極どの性能まで行けそうか？

2. 連盟新規格全長50センチ問題をめぐって

ところがまたまた最近になって、ライトプレーンにも連盟規格の手がまわり、ライトプレーン種目は全長が50センチ以内に決まったと聞きました。さてこうなってみると、さきに西方由来のゴム5グラムルール、いままた連盟全長50センチ規格。実技者としてこれにどう折り合いをつけたらいいか。連盟規格全長50センチはなるほどキリの良い数字ですし、古くなつかしいライトプレーンA級・B級区分の名残も匂います。それはまあけっこうですが、実技をやる身になってみると、こう両面からのしぼりではまとめようにもチト困惑があるのです。私見では、ゴム動力機競技なるものは、ゴム量規制こそが根幹で(フリーライト競技はすべて動力規制で成立している)、ゴム何グラムであれゴム量規制という大ワクのしぼりがあれば、全長規制まで加えて設計・デザインの自由度を奪うのはいかなものかと案ずるのですが、さてどうでしょうか。

ちなみに申しそえますと、全長50センチで困惑があるのは、ゴム量5グラムだからです。5グラムというところが曲者(くせもの)で、ゴム量と全長は互いに連動する関係ゆえ、これが例にとえばゴム量3グラムならば、全長50センチでなら問題はありませぬ。もっとも、ライトプレーンごときにゴム量ルールなどとはぜいたくな、全長50センチ規格で充分だ、というのであれば話は別になります。

とただただでは分かりにくいかと思われるので、実技上どんな困惑があるかを具体的に示します。ゴム量5グラムは通常の3ミリ幅ゴムですと、平均長が約150センチで、両手を伸ばせばほぼ足りるほどの長さです。この長さ150センチゴムにプロペラを組み合わせるゴム東方式には6条方式と4条方式の両様があって、性能的にはどちらも有力ですが、4条方式の方が全長50センチにどうにもまとめにくいのです。

もう少し具体的なことを言いますと、6条方式のゴム東長は約25センチ。これに組み合わせる石井方式のプロペラ径は26センチが標準で、実用最大ゴム巻き数は約600回。この6条ゴム東方式でも上昇時安定に備えて全長54~5センチが欲しいのですが、そこは何とかやりくりでしのぐとして、悩ましいのはゴム東4条方式のほうです。4条ゴム東ですと、ゴム東長約38センチと長く、これに22センチ径プロペラを組みわせての実用巻数は1,100回ほど。この仕様での全長50センチは主翼・尾翼間の寸がつまって、耐えがたく不愉快なスタイルにしか仕上がらない。たかがライトプレーンふぜいがというなかれで、たかがライトプレーンだってやっぱり美人がよろしいわけですね。

参考までに、ゴム6条モデルと4条モデルで飛ぶ性能の違いはどんなかといえますと(実作4条モデル例は全長55センチ超)、上昇性能については目視で両者ほぼ互角か、もしくはほんのわずかに6条モデルが優るかに見えます。ただし、上昇が終り滑空に移ってからの沈下性能が違います。滑空沈下では見た目あきらかに4条モデルが有利で、折畳み方式ならぬ空転プロペラ仕様ゆえの空気抵抗の差は動かしがたいみたいです。というわけで、ゴム東6条方式を採るか4条方式を採るか、全長問題がからんでくるのはこのところで、私見では両方式がやる人の趣向でつつがなく共存出来る規格がよろしんではないかと思う者です。

一などと実技者からの不服を申し立てはしてもです。連盟規格できまったらなれば、これはもうやむなし。じつは本講座を思い立った当初には、プロペラシステムの違いが面白いゴム6条方式と4条方式2本立てを構想していたのですが、連盟ルール尊重の理由から、全長50センチにまとめやすいゴム6条モデルを本筋に話を進めたいと考えます。ただしです。機首プロペラまで含めた全長50センチ厳守は上昇安定にさすがにきついものがあるので、勝手ながらここはスティック長50センチという拡大解釈で折り合いをつけさせていただきたく、この点ご容赦をねがいます。以下次号

◆ 雑談天国

◆ 世界選こぼれ話 2 「1991年・ユーゴの世界選から」

平尾・・・◎

1. 開催地・ズレンニャニンの町の子供達

この大会では男性や婦人のみならず小学校高学年以上で英語がしゃべれる子供達も選ばれて、計時や様々なアシスタントとして働いてくれた。我々がその子供達にお礼にと、日本製のバッチやワッペンをあげると、翌日様々な色の「待ち針」をくれるのである。最初は変な物をくれるナーと思っていたが、後でそれが我々へのお返しである事が解った。ヨーロッパのバッチは日本製と違って、針で刺すタイプがほとんどである。子供達はバッチがないので、お礼代わりに待ち針をくれたのである。何か心につまされる思いであった。

世界選も終わって、いよいよ日本に発つ日の朝7時頃、運営に協力してくれた子供達が見送りに来てくれた。日本選手団が揃うまでホテル1階のロビーで待っている間、その内の一人と話していると彼が「貴方は今、この町を離れ難い気持ちでいるだろう」と言う。一瞬意味が解らずにいるともう一度同じ事を言う。我々にすれば、ここは人口2万人ほどの小綺麗ではあるが普通の地方都市である。小学生がこんな事を言うのかと驚くと共に、その誇り高さに心を打たれた。日本の子供達で、自分の町にこれ程、誇りを持てる子供がどれだけいるだろうかと感心してしまった。私は慌てて「ズレンジャンニは本当には素晴らしい所だ。ぜひもう一度来たい」と言うと、その子は「そうだろう」と本当に誇らしげにうなずいていた。彼らには昼食は支給されるが、バンケットにも招待されず無報酬だった。この時の世界選手権競技は、こうした60名程の子供達に支えられて開催されたのである。余談だが、この子のお母さんはチャーミングな、なかなかの美人だった。

2. 町のデパートで

ズレンニャンニにはデパートが1軒あった。この店に売っている物が余りにも日本と違っていたので、面白くて何度も通った。食品や衣料は普通だが、農業、工具、工業用品まで豊富に売っていて面白い。例えば、ピアノの横に小型のトラクターが置いてある。これは序の口でプロが使う様な工具が一杯おいであつた。多分機械類の修理は自分たちでやるのだろう。

特に驚いたのは、自動車(トラバントのみ)部品の豊富な事には口がアングリである。まず、様々なパーツは当然としても、エンジンまで売っている。フェンダー等は当然としてエンジン・マウントもある。車軸やプレスしたままのドア(当然ながらガラス、取手や蝶番は付いてない)や、シャーシー、フルフレームまである。と言う事はこれを買う人がいて、これを使って自動車を組立て、調整、塗装までする人が居ると言う事になる。日本では到底考えられないことである。ユーゴは農業国だと思うが、相当な技術を持った人々が沢山いると言う事か。

その他で掘出し物のレコードはないかと探してみた。1991年当時なので、テープはあつたがCDはなく、アナログレコードが色々あつた。ほとんどが地元生産品の様で、値段は日本の1/3程度であつた。しかし、よく見ると盤が薄いしレコード溝が随分と細いのである。

曲目は普通でモーツアルトやベートーベンもあつた。美人の地元の歌姫物があつたので、これと一緒にクラシックも何枚か買って帰った。帰国してから歌姫物を聞くと、なかなか綺麗な曲でポピュラーかと思うがアラビア風であつた。レコード溝が細いので当然であるがダイナミックレンジが狭い。解説書は英文であつた。買って来た中で一番気に入ったのは歌姫物で、哀調があつて見事が歌声で何度も聞いた。今は記念として大事にしている。

3. 狩猟民族の凄さ

ズレンニャンニは内陸で、水を得るには河か井戸しか無い。欧州の大勢の選手が家族同伴で、キャンピングカーで来ていて、世界選開催場所に野宿している。そこは広大な牧草地で、大会開催と同時に簡易トイレが2個だけ出来が、それまでは施設は何もなく、当然トイレやフロもない。そこで野宿しているのだから、選手はともかく同伴している家族(妻・子供)がよく不満を言わないものだと感心した。要は全員野糞である。だから、機体回収などで会場付近の森に入る時は、便を踏まない様に用心しながらおそる恐る入った。

朝晩は寒いぐらいだが、昼間は35度にもなる暑さである。身体を洗うのはどうしているかを見てみると、女の子はビキニの水着で付近にある放牧用の井戸(囲いもなく丸見え)の手押しポンプを動かして「キャーキャー」言いながらかぶっていた。その水は泥水っぽく当然飲めなくて、臭くてやたらと冷たいのである。これは、男どもにとっては、なかなかの見ものであつた。我々日本人の場合は、この条件では「非常識だ」とまず家族に文句を言われるだろう。これが彼らのバカンスなのだと思うと、彼らの逞しさに我々農耕民族は「負けた」と思った。文化が大きく違うのである。

ヨーロッパの教会に行くと、日本の仏像の様に清らかではなく、血だらけのキリスト像が沢山見られる。どう間違っても死ぬ事が滅多にない自然が豊かな日本と違って、狩猟民族の国では道を間違えるとすぐ死が待っている。この辺りはハンガリー大草原(500Km×300Km)の南に位置し、唯々真っ平らで、

どちらに進むのにも目標となる山がない。自然が厳しくなるほど一神教や哲学が必要になり、個性的な民族が生まれるのだろう。

▼ 編集後記

⑬

1. 今回、紙飛行機について本気で調べてみました。その結果、インターネット上では予想外に情報が多いのです。特にスケールやプロフィールモデルの呆れる程凝った素晴らしい図面や製作記事があって感心しました。そこから正確なフルカラーの図面が無料プリント出来るし、作りたい物も沢山あって随分と暇がつぶれそうです。飛ばして楽しむのみならず、見ても楽しめる程本物っぽいものもあります。試しに面白そうな物を幾つかプリントして5月記録会の賞品にしました。

2. 無料で取り込める図面の中から、フルカラーで印刷で取り込んで作ると、子供が喜びそうな飛行機が出来ます。特に、「ANA」「三菱重工業」や海外の物はいけます。試しに、ポケモンのANAジャンボ機を本式の紙飛行機用の用紙に印刷し作りました。見てくれも素晴らしく、良く飛びます。紙では狂いが大きいので、2回目は薄手の紙に印刷してバルサで作ってみました。フルカラーの機体が、紙の重量の約半分が出来て、さらに良く飛びます。これはお勧めです。多分これで「栃木大会」のプロフィールスケールの競技に参加出来るはずです(お米が貰える!!!)。全身漫画だらけの綺麗な機体が飛ぶのは、子供に見せびらかすのに最適。

3. ほんの少しですが紙飛行機をかじってみて解った事は、紙はバルサ機と違って脱出口がないことに気が付きました。紙飛行機は「紙」で縛られているので、紙で完結しなければいけない宿命があるのです。しかしながら、紙は悠久2000年の歴史があるだけに、紙だけでやる、又は紙でやれる事は膨大です。今流行の「オタク」の深淵な世界がそこにはあります。そう考えると結構恐ろしいような世界で、生涯を掛けてやる趣味や、商売としても充分な奥行きが見えてきて「利権」や「縄張り」もありそあうで怖いコワイ世界に思えて、かえって尻込みしそうです。まだ一嚙りですので、誤解かも知れませんがバルサの世界が自由世界としたら、紙の世界は統制された世界に見えてきました。